

### 酸素ボンベを持ち歩く肺気腫患者（身障3級）の立場から

田代 喬  
昭和 3 .12 .3 生

#### 肺気腫とは

肺の呼吸能力、つまり、肺胞の酸素と炭酸ガスの交換機能が低下して、高山で酸素ボンベを使うように、常時動作に応じた酸素供給をしながら最小限の行動をしています。また、肺が損傷を受けているため、風邪・ウィルス・各種雑菌・刺激ガス・煙等に対し免疫力・抵抗力が大きく低下してしまうという病気です。そのため、外出時は酸素ボンベをカートのように引いて、チューブを鼻につけてゆっくりと歩きます。

#### エスカレーター切り替えについて

京王多摩センター駅のエスカレーターは、何週間かに一度定期補修があるため、ラッシュを避けて通勤している者にとっては困ったことになります。1度駅員に交渉して、人がほとんど使っていない下りのエスカレーター（電車が着かなければ、ほとんど使われてない）を一時的に上がりに切り替えてもらいましたが、基本的には駅員は嫌がり、断られる事が多いので、個人的に一時的に切り替えを求めることはあきらめています。

#### バス停車位置について

前後に障害物がなくても、直接乗降出来る位置にバスを停める運転手は稀で、長身者なら大まかで、手すりに頼って乗り込めても、身長の高い老人は10cmもある高い歩道から一度車道に降りて、やっとらさと乗り込む場面をよく見かけます。バスを可能な限り歩道から、乗降出来る位置に停めようとしないのは、運転者がそれを特に重要なことと認識していないからではないでしょうか。

#### 路上駐車について

違法路上駐車のために、多摩センターの駅とバスターミナル間にあるエレベーターを利用する場合、1階からのアクセスに迂回しなければならないことが、しばしばあります。即座に動けない者としては車道に出るのは危険で、これも、運転者の認識しだいで改善できるのではないのでしょうか。

施設やしきみづくりも大切ですが、それを運用する側にはまだまだ感覚のズレがある様です。市民一人ひとりの中に弱者に対する「思いやりの心」を育てていくことが、これらを有効に活用するための近道なのではないのでしょうか。